

令和6年度 循環型社会を実現する環境教育推進事業 事業実績書

【高千穂町立高千穂中学校】

1 活動の概要

校区型の事業として、SDGs 15 「陸の豊かさも守ろう」を共通テーマとした。その中で本校のメインテーマを「水」・「土」とし、ユネスコエコパーク・世界農業遺産・流域治水の3つの活動を中心に生徒が直接目で見て、肌で感じられる内容を積極的に取り入れた。

- 2 SDGs の視点 「6 安全な水とトイレを世界中に」「8 働きがいも経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤を作ろう」「13 気候変動に具体的な対策を」「11 住み続けられるまちづくりを」「15 陸の豊かさも守ろう」

事業の実施期間：補助を受けた日から令和7年2月28日まで

1 学校の概要

本校は、九州山地の中央に位置する高千穂町の中心に位置し、校区は町内のほとんどの地域に広がっている。校舎は名勝高千穂峡の柱状節理の上に建ち、学校の周囲は林野に囲まれ、豊かな自然環境のもと、学習活動に取り組むことができる。

高千穂町を含む周辺地域は2015年に世界農業遺産高千穂郷椎葉山地域として、2017年に祖母・傾・大崩ユネスコエコパークとして、国連の関連機関に認定され、以前からこれらに関連する学習活動に取り組んできている。また、昨年度から国土交通省延岡河川国道事務所、宮崎大学と共同で五ヶ瀬川流域治水学習にも取り組んでおり、環境教育を実施していく素地には恵まれている。

2 活動のねらい

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク及び世界農業遺産（GIAHS：ジアス）に認定されている高千穂郷・椎葉山地域の中核である高千穂町の学校として、地域が受け継いできた循環型社会の構造を理解できるようにしたい。その中でも特に「水」や「土」といった生活の根幹となる部分にスポットを当て、SDGsを中心とした環境教育を推進していくと考えた。

3 活動内容

① 高千穂中学校区としての取組

① 腐葉土作成

SDGs 15 「陸の豊かさも守ろう」を実践し、校内で完結できるモノの循環を体感するため校内の落ち葉を腐葉土化し、学級花壇に利用する活動を開始した。校区内の小学校では既に取り組んでいた学校も多く、生徒の理解も早く、順調に活動することができた。



〔腐葉土作成のための箱の設置と清掃時の様子〕

② ESDカレンダーの作成

9月に実施された全国研修会において、学校における活動を、計画的かつ全職員が可視化できるESDカレンダーの作成の重要性を学び、校内研修にて、全職員で作成にあたった。

ESDカレンダーの運用にあたっては、総合的な学習の時間と教科の関連を明確にできるようにするために、3年間の学習活動の流れを可視化できるようにした。また、生徒には教科での学びを活用す

る意識を生み出し、教員にとっては他教科の取組を把握することによって総合的な学習の時間における利活用を円滑に進めることができるメリットが生じる。そのメリットを最大にするためにも、年度当初に学年職員や同一教科の職員で確認を行う必要がある。



[職員研修での ESD カレンダー作成の様子]

(2) ユネスコエコパーク学習

① 高千穂まちづくりプロジェクト

3年生の総合的な学習の時間では、個人でテーマを定め、今後、町が取り組むべきことを提案している。その内容にユネスコエコパークに関する視点を取り入れ、景観を守る・生かす取組を提案した生徒が多くいた。



[町役場訪問] [町長・教育長らへ提案]

② 五ヶ所高原希少植物見学ツアー

県内でも当地でしか見ることができない希少種が多く自生する五ヶ所高原において、夏休みに希望者による見学ツアーを町の総合政策課、地元保全団体の協力のもと実施した。



[地元の保全団体による植物の解説が聞くことができた]

③ その他

Clean 活動デー in 祖母・傾・大崩ユネス

コエコパークというボランティア活動を紹介をされ、3年生を中心に取り組んだ。また、1年生は地元の林業従事者を講師として招き森林学習会を実施した。2年生はユネスコエコパーク学習会として五ヶ所高原の見学を行った。

(3) 世界農業遺産学習

① 尾戸の口棚田デイキャンプ (1年)

1年生の総合的な学習の時間において、棚田でデイキャンプを実施した。活動の中で山腹用水路の成り立ちや維持管理の重要性や難しさ、高千穂の特徴的な農業の循環型の構造を学ぶことができた。



[当日の様子 奥にはテントや焚き火がある]

② 地域伝統芸能学習体験

本校は伝統的に地域の伝統文化を学ぶため文化祭において神楽や民謡などの地域伝統芸能を披露してきた。今年度の活動の中でこの地域伝統芸能が農耕文化と密接に関連することが分かり、その視点も取り入れて学習を進めることができるようになった。



[舞手だけでなく笛・鼓も生徒が務めている]

③ その他

3年生の高千穂まちづくりプロジェクトにおいて、放棄耕作地や花き農家の課題を取り上げ、持続可能な農業を目指す取組を提案した生徒多くいた。また、2年生の職場体験においては、農家で体験を行った生徒が多く、実際の農家の取組に関わることができた生徒が次の学びへ進むきっかけとなっている。

(4) 五ヶ瀬川流域治水学習

昨今の自然災害の激甚化を受け国土交通省が普及を図っている流域治水という考え方を身近な地域と関連を図りながら総合的に学習を進めてた。本来は首長らが出席する流域治水協議会の模擬版を中学生で行うため、年間を通して様々な活動を行った。

① 模擬流域治水協議会

先述のまちづくりプロジェクトにおいて流域治水の考え方を取り入れ、町だけでなく、流域全体への提案を行った。生徒は山腹用水路の維持・活用や透水性コンクリートの観光利用、可動堰の設置案について提案した。

② 流域治水出前授業（2年）

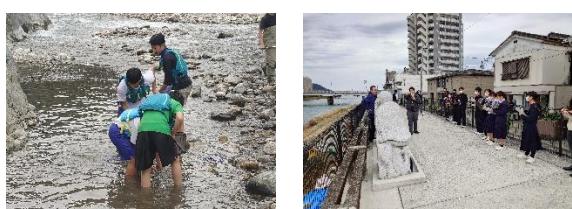
3年生で流域治水に対して提案を行う生徒もいるので、2年生全体に対して出前授業を実施した。身近な田畠や森林がどのように治水に役立つかを考え、自分たちにできることを考察、発表した。



[模型を使って上流域と下流域を再現]

③ その他

流域治水の考えを広めるために「川の喜怒哀楽ツアー」や「流域治水×ミニ水族館」「流域治水バスツアー」を実施し生徒が実体験できる場を多くつくり出すことができた。



[日之影川で生態調査] [延岡市内で豊堤の見学]

4 成果と課題

(1) 成果

○ 環境教育への興味関心の醸成

全学年に対して、環境教育の学習が行われ、すべての生徒が複数回環境教育に関する活動に取り組むことができた。その中でも、自らが希望して実施するプログラムにおいて、土日の週休日や夏休み等、授業時間外の活動にも多くの生徒が自主的に参加した。参加した生徒はすべてのプログラムで延べ71人に及び、実人数では全校生徒の26%がいずれかの活動に参加したことになる。

生徒の参加希望理由の中には、友達から「環境教育学習に参加して楽しかった」と聞いて希望した生徒も複数おり、学習の好循環が生徒間でも波及していることがうかがえた。

○ 関係機関との連携の構築

学年や学校全体で活動する場合には時間や予算、人員を多く割く必要がある。そのためこれまで中学生に対して活動を持ちかけようとしても、上手く中学校との連携を図ることができなかつた町内の関係機関が多くあつたようである。そこで、関係機関の話合いの場や、活動している場に出向くことで、ボランティアという形で中学生に活動を持ちかけてもらうことも多くあつたり、保険を整え、教員による引率を不要としたりすることで、学校としての負担も減らすことができた。

(2) 課題

来年度E S Dカレンダーを計画的に運用していくために、新年度職員による共通理解が重要になる。また、今年度は教員側から与える学習内容が多かつた。今年度、環境教育の機運が高まつたことを生かし、生徒側から引き出していく必要がある。

学校名：高千穂町立高千穂中学校

住 所：西臼杵郡高千穂町大字三田井939番地6

電話番号：0982-72-4121

E-mail：4801jc@miyazaki-c.ed.jp